

# ロンドン・日本で

## 「成育医療」啓発に奔走

“生まれてきてよかった”と  
思える大人に成長させるために。

妊娠中から家族をサポートし、  
産婦人科と小児科を一つに統合して、  
ひとり子どもが胎児から大人に  
なるまで、総合的、継続的に見ていく  
という活動（＝成育医療）を積極的  
に推進する小谷信行医師。

「妊娠中から関わることで、父親  
も母親も親としての意識が芽生え  
る」「子育てで大切なのは夫婦の関  
係」「子どもを自立させるために育  
てるのが育児」等々…。小児科  
専門医として、永年の臨床経験に裏  
打ちされた哲学がある。

Kodani Nobuyuki Ph.D.

**小谷 信行** 医師 ■日本アレルギー学会専門医。日本小児科学会専門医。医学博士

現／順風会 天山病院小児科・成育医療支援室 室長  
前／ジャングリーンメディカルセンター（ロンドン）院長 小児科医師  
元／松山赤十字病院 副院長 小児科部長

1949年10月 鳥取県に生まれる  
1975年 3月 岡山大学医学部卒業  
1990年 9月 岡山大学小児科講師  
1991年 8月 松山赤十字病院小児科 第一部長  
2011年 4月 松山赤十字病院 副院長  
2015年 4月 倉敷成人病センター 理事長補佐・学術顧問  
2017年 1月 ジャングリーンメディカルセンター（ロンドン）代表取締役 兼 小児科医師  
2020年 3月 順風会 天山病院小児科・成育医療支援室 室長



ちょうどコロナを逃れるように2020年1月に日本に帰国。3月から現在の天山病院小児科で診療を開始した。

外来は週2回だが、カウンセリングやアレルギー、夜尿など多くの患者さんが来られている。成育医療の考え方を基本に、アトムグループの認定こども園や保育園で、親子参加型の子育て支援のための講座を、月1回のペースで開いている。

ここでは、「子どもの能力の伸ばし方」「子どもの褒め方、叱り方」など、色々なテーマを中心に講義。フリートークでは、お父さんやお母さんの色々な分野の質問にも応えている。不登校や発達障害、チック、適応障害の子どものほか、大人も受診。必要に応じて学校や職場にも訪問し、関連の人たちと症例カンファレンスを開くなどして、効果をあげている。

## 各種業績

- コラム連載  
ウィークリーえひめリック「Dr小谷の育兒健康ファイル」など
- FM 愛媛ラジオレギュラー出演  
「櫃本真幸の - care of life -」など
- 学会開催  
第34回日本小児皮膚科学会 会頭 など



育兒講座を松山認定こども園星岡ほかで月1回開催



上 = 現在勤務している (医)順風会 天山病院小児科 (愛称/チューリップ)

右 = 小児科のスタッフ



今まで支えていただいた  
多くの方々に深く感謝いたします。  
これまでの経験を生かして  
これからも「成育医療」に取り組みたいと思います。  
よろしくお願ひ致します。

小谷 信行

# ロンドン

## ジャパングリーンメディカルセンター時代

(2015～2020年)

### ① ロンドンへの準備

イギリスでの労働許可（ビザ）取得のため、英語検定試験（IELTS for UK）を受験。久しぶりの受験に四苦八苦。だがなんとか合格。医師免許の申請も無事終了。日英医療福祉セミナー（岡山大学）で「成育医療」について講演した。



ロンドンのジャパングリーンメディカルセンターの診察室

### ② ロンドンでの成育医療

胎児期から大人になるまで一貫して支える医療を展開。ロンドンでの育児講演会をほぼ毎月、さらにベルギーのブリュッセルやフランスのパリ、そして東京でも開催した。イギリスにはないプレママ、プレパパのための妊娠中の育児教室「はぐくみセミナー」をロンドンで毎月催した。



ロンドンで開催の両親学級

### ③ ロンドンで「児童虐待カンファレンス」

に参考人として招聘される。

ロンドンの当局が開催した「児童虐待カンファレンス」に参考人として招かれ、日本の育児文化の特殊性を説明、理解を得た。

### ④ イギリス式の診療

を展開

一人20分以上のゆつくりでゆとりある外来を秘書と共に行った。アレルギー、心身症など多くの子どもたちがやってきた。イギリスでは1日10人も診察すれば、たくさん診たことになる。



ロンドン育児セミナーの参加者ら

# 専門 領域

## 免疫アレルギー、育児学、小児心身症

30年にわたり、気管支喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、心身症、不登校などの小児の体と心の治療やサポートに取り組んでいる。

さらに15年前から「成育医療(胎児から大人までを一貫して支える総合的な小児医療)」を日英で展開してきた。

日本アレルギー学会専門医。日本小児科学会専門医。医学博士

# 学会 活動



会頭を務めた日本小児皮膚科学会で挨拶  
(2010年 松山市)



日英医療福祉セミナーで講演  
(2014年 岡山市)

# 松山赤十字病院時代 (1991~2015年)

① 心身症、不登校、発達障害、児童虐待への取り組み、子どもの心理外来

カウンセラー4人と共に、多くの心身症や不登校、発達障害の診療を展開。特に学校との連携や児童相談所、保育所関連の各種カンファレンスを積極的に行った。

② 育児支援

胎児期から成人まで一貫して支援する「成育医療」を実践するため、産科・小児科を統合した「成育医療センター」立ち上げ、胎児から成人するまで継続的に小児科医や臨床心理士が関わるシステムを実践。産科医と助産師がチームを編成し、多くの症例に総合的に関わった。成育支援ボランティア、成育コミュニティボランティアを養成して、医療、教育ボランティアとして活動を続け成果をあげた。現在の認定ボランティア数は約200人。

③ アレルギー外来

アレルギー専門医として、食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、気管支喘息児を診療。さらに、喘息児サマーキャンプ、食物アレルギーの食物負荷試験システム、救急対応カードシステムを整備した。

④ 3000人集会(成育コミュニティボランティア発足のための集会)

愛媛県民文化会館大ホールで、3000人が参加した医療、教育、家庭の連携をテーマにしたシンポジウムを開催。これを機に、松山市と松山市教育委員会、松山赤十字病院の三者間で、学校現場に成育コミュニティボランティア派遣の契約覚書を締結。その後、養成されたボランティアは学校現場で活躍している。



成育医療カンファレンス(松山赤十字病院)

⑤ 松山市急患センターの立ち上げに参加

小児救急問題の解決の一つとして、松山市、松山市医師会、松山小児科会、松山赤十字病院などの協力の下、「松山市急患センター」を新設。夜間も含めた小児救急体制が整備された。

⑥ 児童虐待への取り組み

カウンセリングにおいて多くの児童虐待事例に遭遇することから、松山市保育課、児童相談所、警察署などと連携。対応、支援した。